

地域協働ネットワーク支援事業「地域力向上交流会」

第1回「今こそ再考、地域の安全安心とコミュニティ」

東日本大震災から間もなく一年。自らの命と地域の安全を確保するため、日ごろから意識を持って備えることが重要であることを、あらためて考えませんか。

未だ終息しない福島県において、さまざまな課題を抱えながらも「少しでも安心して暮らすには」「心のよりどころをどこに求めるか」「避難先でのコミュニティのあり方とは」「今後どのように備えるか」などを考えるために、全島避難を余儀なくされた三宅島大噴火の被災経験者、三宅島災害支援者を迎え、4年半に及んだ避難生活や支援体制、20年ごとに噴火を繰り返す島の防災体制などから、復旧・復興の足がかりとなる地域コミュニティのあり方を探ります。

日時

2012 年 2 月 25 日 (土)
13:00 ~ (開場 12:30)

第1部

演題「噴火～全島避難～帰島」

講師／坂上幸一郎氏（「みやけじま風の家」運営責任者）

場所

いわき市労働福祉会館
中会議室

第2部

対談「地域の安心安全を考える」

パネラー／

上原康男氏（東京災害ボランティアネットワーク事務局長）

坂上幸一郎氏（「みやけじま風の家」運営責任者）

コーディネーター／

金成義則氏

（NPO 法人ふくしま災害コーディネーター支援センター理事長）

申込は…

裏面の申込書にご記入のうえ、
2月23日（木）までに
FAX にてお申し込みください。

上原 康男（うえはら やすお）



1995年阪神・淡路大震災の現場で40日の救援・支援活動を展開。97年連合東京ボランティアサポートチーム結成。98年、東京災害ボランティアネットワーク設立。2000年9月に三宅島災害・東京ボランティア支援センター設立。05年、三宅島全島避難解除に伴い「三宅島帰島支援活動」を開始、三宅島阿古地区に「みやけじま風の家」設立。東日本大震災を受け宮城県南三陸町及び登米市内にて被災者支援活動を展開中。現在、東京災害ボランティアネットワーク事務局長

坂上 幸一郎（さかう え こういちろう）



2000年三宅島雄山噴火災害の発災に伴い、4年6ヶ月の島外避難を経験。同年設立された【三宅島災害・東京ボランティア支援センター】事務局に参加し、被災者支援活動を経験。島民と支援の方々と共に歩む。たくさんの支援や行政との連携の中で「島民電話帳の作成」や「島民ふれあい集会」など様々な支援活動を経験。2005年2月1日の避難指示解除を受けて始まった三宅島への帰島。これまでの支援を集結し延約5000人ものボランティア参加のもと進められた「三宅島帰島支援活動」では事務局として活動。帰島後の新しいコミュニティ作りの場として2005年10月に島内に設立された「みやけじま風の家」の活動に参加。2011年3月11日の東日本大震災では、宮城県内の東京災害ボランティアネットワーク現地事務局として活動。